

□主人公・悠人が出会った中二の女の子・朱音はヤングケアラーです。ヤングケアラーとは、18歳未満で家事や家族の世話、介護などをする人のことです。(https://www.mhlw.go.jp/stf/young-carer.html)

□私は「ヤングケアラー」について、知りませんでした / 言葉だけは聞いたことがありました / ニュースを見たことがありました / まったく考えたこともありませんでした / この本を読んではじめて知りました。

□もし私が家族のために朱音のような（家族の世話をしして家事をする）生活をするを考えると、  
と感じました。 / 思いました。

なぜなら、  
だからです。

□私は知らないだけで、身のまわりにもこの問題でこまっている人、日常の生活ができない人、希望が持てずにいる人がいるのだと知りました。もし、身近に朱音のような人がいたら、私はどう接したらいいのか

だと、あらためて / 強く / 心から / 深く / 具体的に 考え / 思い / 認識し / 理解しました。

なぜなら  
だからです。

□私も【誰かに助けをもとめられた出来事 / 誰かをサポートした体験 / 助けてと言えない人に気づいた体験】

①状況の説明、②行動 ③状況 / 心の変化  
ということがありました。

そのこと / 体験から、（誰かと助け合うことは / みんなと協力すれば一人でできないことも / 声を上げられない人に気づいてあげることは）  
だと思いました / という気持ちがわかります。

□もし、自らが朱音の立場になったら、誰かに助けを求められるだろうか？ / 家族のために協力できるだろうか？

□私も【ピンチのときに冷静に考えて行動できた・できなかった出来事 / 自分が大変・こまっていることを素直にまわりに伝えられなかった出来事 / 自分さえがんばればいいと思って「助けて」と言えなかった体験】

①状況の説明、②行動 ③状況 / 心の変化  
ということがありました。

その経験 / 出来事から、（冷静な判断と行動 / 自分一人でできないことは誰かに頼る / 一人でかかえこまないで解決策をみんなで考える / 人とのつながりや気持ちを伝えることも大切）  
だと思いました。

□この本を読むまでは、「ヤングケアラー」について他人事のように考えていた / 深く考えたことがなかったけれど、  
ということを知りました / 考えました。

□朱音のような人々は、一部の家族 / 特殊な例 だけの問題でなく、これからの日本で / 高齢化社会でとても身近な問題 / 解決しなくてはいけない問題 / 重要な課題 / みんなで考える必要があること だと思いました。

□これからは、福祉や介護のニュース / 高齢化の問題 について、  
と思います。